

第39回（2023年度）マツダ研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

分野	研究題目および研究概要	研究代表者	所属	役職 (応募時)	研究 期間 (年)	助成 金額 (万円)	地域
若者の居場所づくり	仮想空間上の教育支援センターにおける不登校傾向の子どもの居場所づくり	三和 秀平	信州大学	准教授	2	80	長野県
	長野市は不登校傾向にある児童生徒の居場所として、教育支援センターを新たに設置する。この施設では通所をして学ぶことが前提となるが、様々な理由から施設に通えない子どものために、仮想空間上に仮想センターをつくり、オンラインでも通うことができる体制を整える。その上で、仮想センターは児童生徒の居場所となり得るのか、仮想センターに通所することでどのような効果をもたらすのかをアンケートや行動ログの分析により明らかにする。そして、仮想空間上での不登校支援の事例として、取り組みを発信していく。						
ボランティア育成	オンラインを活用した子ども支援活動におけるスタッフの専門性とその向上に関する研究	伊藤 駿	広島文化学園大学	講師	2	80	広島県
	本研究は、新型コロナウイルスの流行以降急速に広がったオンラインサービスを活用した子ども支援活動において、ボランティアとして活動する人々に求められる専門性を明らかにするものである。さらに、その専門性の獲得に向けた具体的方策を提案する。そのために、ボランティアに取り組んでいる人々へのインタビュー調査および質問紙調査を実施した上で、実際の研修パッケージを作成する。研修パッケージについては積極的に公開し、オンラインを活用したボランティア活動に取り組む団体が活用できるようにする。						
若者の居場所づくり	子と親を支える居場所づくりに向けた「つくる」を軸にする地域創発型方法論の開発	西野 雄一郎	大阪公立大学大学院	講師	2	80	大阪府
	本研究は、不登校児童生徒の増加にともない親子のための第三の居場所づくりが課題となっていることを受け、神戸市須磨区多井畑地区の古民家改修での実践を通して「農福連携」を超えた「つくる」を中心とする地域創発型の居場所づくりの方法論の開発を目指す。本実践では、研究室の支援の元、地域住民や利用者とともに地域資源を結びつける制作アトリエ兼農地併設の子どもと大人の居場所の計画・設計の実践を行い、若者を核とする地域の居場所づくりのプロセスを開発・評価することで、その方法論を構築するものである。						
地域連帯、コミュニティづくり	知的障害や発達障害がある青少年を対象としたVRによる旅行支援に関する研究～客観的・主観的なストレス評価を通して～	立石 力斗	近畿大学九州短期大学	講師	2	60	福岡県
	知的障害や発達障害がある方の中には、未知の空間に行く旅行に心理的負担を感じる場合がある。このことから、修学旅行や観光が負担になる現状がある。そこで本研究では、現実空間をデータ化するデジタルツインによるVRコンテンツを開発し、観光地が用意するパンフレットとの比較から、その有効性を検討する。はじめに、知的障害や発達障害がある高校生を「VR群」「パンフレット群」に分ける。次に、実際に観光地に行き、旅行中のストレスに与える影響を定量的に分析するため、唾液によるストレスチェックを行う。						
合計 4 件					助成金総額		300万円